

トーキョーアーツアンドスペースレジデンス 2023 成果発表展

誰かのシステムがめぐる時

第 1 期 | 2023 年 7 月 1 日(土) ~ 8 月 6 日(日)

第 2 期 | 2023 年 8 月 19 日(土) ~ 9 月 24 日(日)

トーキョーアーツアンドスペース本郷

— 世界の街を舞台に滞在制作を行った、国内外のアーティストたちによる成果発表展

トーキョーアーツアンドスペース(TOKAS)では、2006 年よりレジデンス・プログラム「クリエイター・イン・レジデンス」を開始し、東京や海外の派遣先を舞台に、さまざまな分野で活動するアーティストたちへ活動の機会を提供しています。本展では、2022 年度に海外各地の提携機関や東京の TOKAS レジデンスで滞在制作した 11 組のアーティストが成果を発表します。

■ 展覧会概要

展覧会名: 誰かのシステムがめぐる時 [トーキョーアーツアンドスペース レジデンス 2023 成果発表展]

アーティスト: 第 1 期 | 芦川瑞季、タイラー・コバーン、早崎真奈美、トレイシー・スネリング、渡邊拓也、
Zakkubalan(アルバート・トーレン&空 音央)

第 2 期 | 新井 卓、ベルトラン・フラネ、ラービッツシスターズ(ベネディクト・ジャコブ &
ロール＝アンヌ・ジャコブ)、太田 遼、グシェゴシュ・ステファンスキ

会 期: 第 1 期 | 2023 年 7 月 1 日(土) ~ 8 月 6 日(日)

第 2 期 | 2023 年 8 月 19 日(土) ~ 9 月 24 日(日)

会 場: トーキョーアーツアンドスペース本郷(東京都文京区本郷 2-4-16)

開館時間: 11:00 - 19:00(最終入場は 30 分前まで)

休館日: 月曜日(7 月 17 日、9 月 18 日は開館)、7 月 18 日(火)、8 月 7 日(月)~8 月 18 日(金)、
9 月 19 日(火)

入 場 料: 無料

主 催: 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペース

提携都市/機関: アトリエ・モンディアル(スイス、バーゼル)、ウィールズ、ベルギー・フランダース政府(ベルギー、ブリュッセル)、HIAP[ヘルシンキ・インターナショナル・アーティスト・プログラム]、
フィンランド文化財団(フィンランド、ヘルシンキ)、トレジャーヒル・アーティスト・ヴィレッジ、
アーティスト・イン・レジデンス台北(台湾、台北)

ウェブサイト: <https://www.tokyoartsandspace.jp/>

<お問い合わせ >

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース(公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

広報担当: 舟橋、市川

TEL: 03-5245-1142 FAX: 03-5245-1154 E-mail: press@tokyoartsandspace.jp

■ 展覧会について

私たちの社会は、多様なシステムによって形成されています。生態系、あるいは政治、経済といったマクロの仕組みが、私たち個々の意識や言動、対人関係などのミクロな営みにどのように影響しているのか。そして、それらが、いかにしてマクロに還元されていくのか。

本展で紹介する11組のアーティストたちは、それぞれの視点から、複雑化していく社会構造と自身の関係性を探り、さまざまなシステムの存在や成り立ちを顕在化させることで、私たちに示唆を与えます。そして、大小無数の歯車が噛み合っ、思わぬところにまで動きが伝わるように、彼らの作品は、一見無関係に見えるものたちで作用し合っているこの社会のシステムを浮かび上がらせます。

■ 関連イベント

※日程及び参加アーティストは変更となる場合がございます。

アーティスト・トーク(予定)

【第1期】 7月1日(土) 15:00-16:30

出演:タイラー・コバーン、早崎真奈美、トレイシー・スネリング

※日英逐次通訳あり

7月15日(土) 15:00-16:30

出演:芦川瑞季、渡邊拓也、Zakkubalan(ビデオ出演)

【第2期】 8月19日(土) 15:00-16:30

出演:ベルトラン・フラネ、ラービッツシスターズ、グシエゴシュ・ステファンスキ

※日英逐次通訳あり

9月2日(土) 15:00-16:30

出演:新井 卓、太田 遼

その他、パフォーマンスの日程等の詳細は、TOKAS ウェブサイトで発表します。

参加クリエイター／広報用画像 ※この他にも広報用画像を用意しております。広報担当までお問い合わせください。

【第1期】

芦川瑞季 | ASHIKAWA Mizuki

国内クリエイター制作交流プログラム

2022年6月～7月滞在

芦川は「祝祭の痕跡」というテーマのもと、オリンピック以降の風景を求めて、競技場跡地や選手村など東京湾周辺の埋立地を訪れ、都市の利用や所有のあり方、そこに広がる新たな生態系などを探究しました。隙間なく作り込まれた土地である一方、根本的な何かが欠けているような、圧倒的な不在を手掛かりに制作したリトグラフとドローイングを展示します。



1. 《臨海公園》
リトグラフ、洋紙 2022

【プロフィール】1994年静岡県生まれ。東京都を拠点に活動。武蔵野美術大学大学院造形研究科博士後期課程在籍。主な展覧会に「第3回 PATinKyoto 京都版画トリエンナーレ2022」(京都市京セラ美術館)など。

タイラー・コバーン | Tyler COBURN

海外クリエイター招聘プログラム

2023年1月～3月滞在

歴史と異なる道筋を想像して創作を行うコバーンは、16世紀に初めて日本に上陸したヨーロッパ人が当時どのように描写されたのか、そして歴史の文脈から、人の往来と疫病との関係性に焦点を当ててリサーチをしました。胡粉で描いた壁面作品と織部南蛮人燭台を用い、史実とフィクションを織り交ぜたレクチャー・パフォーマンスを行います。



2. 《Candlestick Man》
パフォーマンス 2023

【プロフィール】1983年アメリカ生まれ。ニューヨークを拠点に活動。2012年南カリフォルニア大学 Roski School of Art and Design修了。主な展覧会に「Hello, Robot」(Vitra Design Museum、ランス、フランス、2022)など。

早崎真奈美 | HAYASAKI Manami

二国間交流事業プログラム<パーゼル>

2022年4月～6月滞在

三国国境の都市パーゼルで、早崎は生態系を介した国境について考察しました。本展では、西洋タンポポをスイスからドイツを経由し、フランスに植えるというプロジェクトを記録したビデオ作品や、その経路を記した国境のない地図の切絵、一連の活動を追体験できるボードゲームなどで構成したインスタレーションを発表します。



3. アトリエ・モンディアルでのスタジオ風景
2022

【プロフィール】1980年大阪府生まれ。東京都を拠点に活動。2007年チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン卒業。主な展覧会に「越後妻有 大地の芸術祭 2022」(新潟)など。

トレイシー・スネリング | Tracey SNELLING

海外クリエイター招聘プログラム

2022年5月～7月滞在

特定の場所やそこでの人々の体験への関心から、ラブホテルとホストクラブをリサーチしました。ラブホテルでは、仮装をした協力者に愛や人間関係についてのインタビューを、ホストクラブでは、ホスト等へのインタビューや接客の様子を記録しました。本展では、そこで撮影した写真や映像、ラブホテルのミニチュア立体作品を発表し、ネオン街で生きる人々の経験を再現します。



4. 《ホテルロッシュェル》
写真 2022

【プロフィール】1970年カリフォルニア生まれ。ベルリンを拠点に活動。1996年ニューメキシコ大学芸術学部アートスタジオコース卒業。主な展覧会に「第58回ヴェネチア・ビエンナーレ」(Sale d'Armi、Swatch Pavilion、2019)など。

渡邊拓也 | WATANABE Takuya

二国間交流事業プログラム<ブリュッセル>

2022年7月～12月滞在

滞在先のブリュッセルで出会ったモロッコ系移民の青年とのやり取りを契機に、伝統的な価値観とグローバルな価値観との間に生きる彼が求める男らしさに着目しました。国境や文化圏をまたぎ、都市へ移動する人々が抱える複雑なアイデンティティの交差性を、各地から都市に集められる果物の存在に重ねて制作した一連の映像インスタレーションを発表します。



5. 《君は、僕と一緒に一日を過ごしてよかったですか? #2》
(原題: *T'es content d'avoir passé une journée avec moi? #2*)
トリプル・チャンネル・ビデオ 2023

【プロフィール】1990年生まれ。東京都を拠点に活動。2016年東京藝術大学大学院美術研究科修了。アーティスト・プラクティス2016、2017 Arts Initiative Tokyo [AIT]を修了。主な展覧会に「土蔵の疲れは夢」(デカメロン、東京、2022)など。

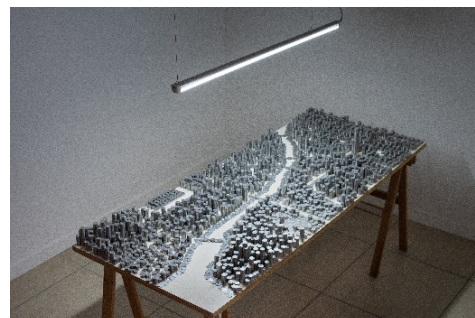
Zakkubalan(アルバート・トーレン&空 音央)

Zakkubalan (Albert THOLEN & SORA Neo)

海外クリエイター招聘プログラム

2022年9月～12月滞在

1923年の関東大震災から100年を迎える現在、鯨絵と防災訓練から着想を得たZakkubalanは、地震のイメージと対峙し制作を進めました。本展では、関東大震災から経過した日数と同じ枚数の1円玉を用いて会期中も拡大する想像都市の彫刻や、避難所運営を模擬体験できるカードゲームで遊ぶ様子を記録した映像作品を展示します。



6. 《Imagined Earthquake 01: One Yen City (Seismograph)》
1円玉、75×175cmのテーブル 2022

【プロフィール】アルバート・トーレン:ワシントンD.C. 生まれ。ニューヨークを拠点に活動。2015年ウエズリアン大学映画学科卒業。空 音央:ニューヨーク生まれ。ニューヨーク、東京都を拠点に活動。2014年ウエズリアン大学映画学・哲学専攻卒業。主な展覧会に「Below the lighthouse is the darkest part of the night」(デイビッド・アイルランド・ハウス、サンフランシスコ、2021)など。

【第2期】

新井 卓 | ARAI Takashi

二国間交流事業プログラム<ヘルシンキ>

2022年9月～12月滞在

写真黎明期の技法であるダゲレオタイプ(銀板写真)を独自に習得した新井は、近年は核実験や原発事故など核をテーマに取り組んでいます。渡航先のフィンランドでは、原発周辺地域や高レベル放射性廃棄物の最終処分場「オンカロ」を研究対象とし、核廃棄物が無害化する十万年後の世界と現在を架橋する新しい言語を写真と映像で探索します。



7. 《十万年後の森、オルキルト、フィンランド》
ダゲレオタイプ 2022

【プロフィール】1978年神奈川県生まれ。神奈川県を拠点に活動。主な展覧会に「Squaring the Circles of Confusion: Neo-Pictorialism in the 21st century」(英国王立写真協会、ブリストル、2022)など。

ベルトラン・フラネ | Bertrand FLANET

海外クリエイター招聘プログラム

2022年5月～7月滞在

主に3Dアニメーションを用いて、社会に潜在する疎外感をフィクションで映し出すフラネは、巢鴨プリズンと植物ハマユウの分布限界を示すハマオモト線について調査を実施しました。制限された状況や環境という類似点のもと、一見かけ離れた両者を抽象的に繋ぐインスタレーションを試みます。



8. 《Tempers》
3Dライブ・シミュレーション 2022-2023

【プロフィール】1986年シルティカーム(フランス)生まれ。ベルリンを拠点に活動。2017年レンヌ第二大学大学院修了、同年国立造形美術大学シュテューデルシューレ・フランクフルト卒業。主な展覧会に「Salon de Montrouge」(beffroi de Montrouge、パリ、2021)など。

ラービッツシスターズ | LarbitsSisters

(ベネディクト・ジャコブ & ロール＝アンヌ・ジャコブ) |

Bénédicte Jacobs & Laure-Anne Jacobs

海外クリエイター招聘プログラム

2023年1月～3月滞在

ラービッツシスターズは、微生物の生態や草花などの宿主との共生関係など、さまざまな生物の関係を探究。東京での滞在期時には、住宅地を彩るストリート・ガーデン(都市緑地や路上庭)に焦点を当て、リサーチを行いました。本展では、光合成をテーマに、写真集やサウンドワーク、立体作品などでインスタレーションを構成します。



9. TOKASレジデンス滞在中のリサーチの様子
2023

【プロフィール】2010年にベネディクト・ジャコブ(ソーシャルメディア研究者)とロール＝アンヌ・ジャコブ(メディア・アーティスト)により結成。主な展覧会に「ICC アニュアル 2022 生命的なものたち」(NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]、東京)など。

太田 遼 | OHTA Haruka

二国間交流事業プログラム<台湾>

2022年10月～12月滞在

建築物の内部と外部を反転または共存させるなど、境界の両義性を追究して作品を制作する太田は、台湾で多く見られる「鉄窓花」という窓の外側に設ける鉄柵に着目。本展では、室内の延長として使われているその窓の外の空間を介したインスタレーションによって、鑑賞者に屋内と屋外の隔たりや概念を問いかけます。



10. 《Inland Outside》
木材、アルミテープ、窓など 2022
撮影：Treasure Hill Artist Village

【プロフィール】1984年生まれ。埼玉県を拠点に活動。2010年武蔵野美術大学大学院修了。主な展覧会に「I always wish you good luck.」(Art Plug Yeonsu, 仁川、2022年)など。

グシェゴシュ・ステファンスキ | Grzegorz STEFAŃSKI

海外クリエイター招聘プログラム

2023年1月～3月滞在

人間関係における自身の行動パターンの観察と、心理療法による分析から着想を得て制作をするステファンスキは、社会環境、および建築空間としての「家」に着目し、滞在時に日本の伝統的な家を舞台にパフォーマンスを撮影しました。本展では、人間関係におけるケアと暴力の力学、そして家という概念を探求する三部作の第一部を発表します。



11. 《no sticks and stones can ever break our bones》
ビデオ 2023

【プロフィール】1983年チュウフフ(ポーランド)生まれ。ロンドンを拠点に活動。2018年ロンドン大学スレード美術学校メディアコース修了。主な展覧会に「sleeper」(Tick Tack、アントワープ、2022)など。

「誰かのシステムがめぐる時」
広報用画像申込書

Email: **press@tokyoartsandspace.jp**

Fax 番号: **03-5245-1154**

トーキョーアーツアンドスペース広報担当宛

(ご希望の広報用画像番号にチェックを入れてください)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11

掲載媒体名(特集・コーナー名)

種別 TV ラジオ 新聞 フリーペーパー ネット媒体 その他()

掲載/放送予定日 月 日 発売/放送(月号)

貴社名

ご担当者名

Tel

Fax

E-mail(画像はメールでお送りしますので必ずご記入ください)

画像到着希望日 月 日 時頃までに送付

※ご記入いただいた個人情報は、お問い合わせ及びご要望に対応させていただく目的のみ利用させていただきます。

※お急ぎの場合はメールもしくは、お電話でお問い合わせください。

【注意事項】

※画像データは申請時の目的以外での使用はできません。ご掲載や放送以外の目的での写真のご利用はご遠慮ください。また、申請時とは別の媒体での使用、再販等の場合は改めて申請してください。

※画像データは、メールにてお送りします。お手元に届くまで1~2日(土日祝休み)ほど頂戴いたしますのでご了承ください。

※作品画像は全図でご使用いただき、トリミング、文字載せはお控えください。必ず所定のキャプション等を併記してください。

※提供した画像データは、使用后速やかに破棄してください。画像が無断で第三者に利用されることのないよう、Web サイトへのご掲載は、画像にコピーガードや転載不可の明記をしてください。

※情報確認のため、事前に記事原稿をお送りください。

※取材の内容が収録された番組等はビデオ・DVD を一部、印刷物(掲載誌・雑誌)については現物を1部もしくはコピーの場合は3部ご送付ください。Web サイトの場合は、掲載時に URL をお知らせください。

<お問い合わせ> ※校正ゲラ及び掲載誌紙・DVD 等は下記宛にお送りください。

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース(公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

広報担当: 舟橋、市川

TEL: 03-5245-1142 / FAX: 03-5245-1154 / E-mail: press@tokyoartsandspace.jp